

ゴミ拾いの哲学



田鍋 一樹

ゴミ拾いから宝拾いへ

私は、ゴミというか埃というかそういうものに変興味を持っておりました。

というのは、ゴミは障子の棧にも溜まりま
すし、もちろん道路にはいろいろなごみが一
杯あります。チリ取りゴミ拾いはとても一筋
縄ではいきません。やさしくそーつと拭いて
あげないと障子は破れますし、そうかとい
うと固いものでこすらないといけないものもあ
ります。ゴミって大変多様だと思えます。

私は死の淵から生還して体が動くことが
判り、リハビリを兼ねて恐る恐る散歩を始め

ました。

最初はユックリカミさんに手を引かれる
感じで行っていましたが、段々自信がついて
きてカミさんと一緒ながら一人で歩けるよう
になりました。段々歩けるようになって以前
を思い出してクリーンウォークを始めました。
ということ散歩をしているのですが、田
圃の車道から畦道に行くとき草むらに結構ご
みが落ちていて『うーん』と思います。

カミさんと、何でこんなゴミを拾うのか、
汚いからやめようとか言いながら歩いていま
す。「田圃道、気分爽快歩きつつ心を削ぐはゴ
ミの空き缶」今日こそはゴミは無きかと歩け
るをとどこどこに空き缶のあり」と下手な
短歌を作って慰みとしています。恰も弥次喜
多道中です。無理するとまた心筋梗塞を起こ
す可能性がありますので、その辺をよく考え
て行っています。

ゴミ拾いの目覚め

以前の話になりますが、平成29年2月頃からですが、意を決して、家の周り近所、道路のゴミなど、拾い始めました。そして平成29年12月に鹿嶋のおはよー倫理塾に入会しました。朝、ゴミ拾いのことを時々実践報告していました。すると支部長が皆でやろうと提案されました。全員すぐ賛同して頂きました。会員長老の鈴木さんがゴミは宝なのだという感動的な話をされました。以来、ゴミ拾いではなく宝拾いと呼ぶことになりました。まちの道路には、色々なゴミが落ちています。汚いと思います。

愈々平成31年(2019年)2月に宝拾い活動がスタートしました。以降毎月行っています。

尚、倫理の会は倫理研究所を中心に活動していますが、1892年生誕の丸山敏雄が創

始者であり「万人幸福の葉」をバイブルとして全国展開している財団です。鹿児島にも支部があります。

住金に入社している現役時代、私は仕事柄、省エネルギー活動を一生懸命やってきました。当時企業で働いているとき、皆が全力でやると工場の無駄がなくなりとてもきれいになっていきました。そして、まちのゴミを無くすることも省エネに通じるものがあると思うようになっていました。ゴミで汚れていないまち、エネルギーを無駄遣いせずにCO₂で空気を汚さないまちは、まちの美化に不可欠だと思うからです。

生活倫理セミナーへの参加

令和元年6月、私は初めて富士高原の倫理研究所の生活倫理セミナーに参加しました。

全てが心に残る素晴らしいものでしたが、特に講話の中で示された2枚の写真と1枚のスラ

イドに釘付けになり今でも脳裏を離れません。その一つは、2代目の丸山竹秋会長がゴミを手押し車一杯に押しつけてここにこしておられる姿でありました。もう一つは、同じく竹秋会長が、まだ荒野の富士の裾野に立つて周りをじーっと見ておられる姿でありました。まだ何もない富士の荒野に今日の富士研の形を脳裏に描いておられたのだと思います。正に足元から未来を見つめておられる姿だと思いました。そして実践10ヶ条がスクリーンに映し出されました。アツと驚きました。それは正しく省エネに通じる言葉が並んでいたからです。そこには、清掃を徹底しよう。ゴミを出来るだけ減らし、外でのごみは持ち帰ろう。電気を節約しよう、水を節約しようといった言葉が並んでいました。

ゴミ拾いの哲学

ゴミを拾うことによつて道がきれいにな

りますし、その道を通る人の気分も良い筈です。

鹿嶋倫理の会のゴミ拾い（宝拾い）プロジェクトは、既に40回近く行つて、ゴミに対する心の変化が起きました。最初は、ごみを捨てた人に対して、何でごみを捨てるのだと恨みがましく思いました。そのような人はまだゴミ拾いの初心者です。ごみは宝だという言葉に接して、ごみを捨てる人は、例えば車の灰皿をパツと道路に捨てる人もいますが、これらの人は身边を綺麗にするという心はありませんながら、自分の未来を自ら汚しているのではないかと思ひます。それは、過去を反省し未来に希望を持つことの真逆のことだと恐れます。

歩きながら道の宝を拾う、そのことにより自分の行く道が輝いてきます。同時にその宝を捨てて未来を汚した人の道も輝くよう助け

ているのではないかと思えます。

自分の道も輝き、捨てた人の道も輝く手助けとなる。正しくゴミ拾いは宝拾いだと感じづき日々実感しています。地道な宝拾いは、心輝く一歩になりました。そして、鹿嶋のまちが美しい街になる一歩を踏み出したのではないかと嬉しくなりました。

かしま環境ネットワークでの活動

一方私は、平成17年に設立されたかしま環境ネットワークの役員として平成24年より活動協力しています。爾来、個人的に道路のゴミ拾いをやっていますが、その様子をあちらこちらで見ていたネットワークの会員から平成31年に鹿嶋クリーンウオークプロジェクトをやるとうと提案がありみんなで合意されました。以来鹿嶋をきれいに、鹿嶋の環境を良くしようとクリーンウオークプロジェクトが開始され、毎月街のあちらこちらで活

動を行っています。お蔭で鹿島の街の道路はゴミの量が大変少なくなってきました。

おはよー倫理塾での活動

おはよー倫理塾での宝拾いは、かしま環境ネットワークの活動に先んじてスタートしました。月1回朝6時〜6時30分に行っています。ゴミ拾いのあとは、近くのマグドナルドでワイワイとコーヒーを飲んで散会します。

色々なゴミ拾いの団体

ゴミ拾いを行う団体は、国内に多く存在します。

例えば国内で最も大きな団体グリーンバードです。「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した原宿表参道発信のプロジェクトです。今や全国各地や海外にも広がっている運動です。

その他にも全国に色々あります。例えば令和クリーンRUN・10という団体は、皇居



かしま環境ネットワーククリーンウォークプロジェクトの様子



おはよー倫理塾の宝拾いの様子

の周りをきれいにしようとごみを拾いながら
 走ることを合言葉にしています。また荒川ク
 リーンエイド・フォーラムは、『ごみ問題と向
 き合い自然とともに生きる社会』をビジョン
 にしています。更に地域貢献活動として【ウ
 オーキング&琵琶湖岸清掃】は、プロバスケ
 ットボール選手やトップアスリートと一緒に
 びわ湖湖岸沿いをウォーキングしながら、街
 をキレイに！身も心も健康にとという運動です。
 また各地域にもゴミ掃除団体があります。例
 えば福岡では福岡天神夜そうじや福岡天神ク
 リーンデー。また鹿児島にもグリーンバード
 鹿児島チームという活動団体があり街をきれ
 いにという活動を行っています。更にビーチ
 クリーン（海岸清掃）ボランティアというこ
 とで、誰でもお手軽にビーチをクリーンにで
 きますので、ボランティアで海岸清掃をやっ
 てみませんかとやっていますし、大学でも「第

10回大学対校！「ゴミ拾い甲子園」の魅力
 を紹介しています。

といったように無数にゴミ拾い団体は存
 在します。街をきれいにしようということが
 基本理念ですが、いずれも何故ゴミ拾いを行
 うのかという個人の心情に訴える哲学が存在
 しないように思えるのは残念です。

最後に

想えば平成28年に娘を亡くして、中々癒
 えることがなかった頃、昔職場でお世話にな
 ったおはよー倫理塾のシニア委員会委員長の
 出口さんに、朝来てみないかと誘われました。
 参加してみても、ゴミ拾いという地道で大きな
 実践の道をみんなで見つけたような気がいた
 します。宝は、どこでも落ちています。出口
 さんはその後自転車で毎朝散歩しているとき
 ゴミがあれば拾っているとのこと、「おー凄
 いなー」と思います。また私もカミさんと家

の近くを散歩していると「いつもありがとうございます
 ございます」とか「大変ですなー」と声をか
 けられます。言ってみれば人知れずやっている
 のですが、見ている人もいるのだなーと思
 います。またある人が神宮の周りを散歩して
 いてゴミが落ちてしていると、待てよ、田鍋さん
 はこんなゴミを拾っているんだよなーと拾っ
 て帰ったそうです。ゴミ拾いの輪が広がって
 いるのを感じます。

忘れられない言葉

ゴミ拾いつまり宝拾いの実践活動を通じ、
 倫理塾で「万人幸福の葉」を毎回輪読してい
 る中で、ゴミ拾いは第13条、『元を忘れず末
 を乱さず』に完全に沿っており、忘れられま
 せん。そして、この言葉がとても気に入って
 います。それは、確実に未来を輝かしてくれ
 ると思うからです。という訳でゴミ拾いを行
 っていることが、我が家の健康と大きな心の

平安になっっていることを感謝している次第で
 す。

(NPO法人「鹿嶋省エネ研究会」会長)

